

紙飛行機で「大樹」PR

都内の研究施設で4月から配布

市職員の木川さんが型紙製作 「科学に興味持って」

大樹町での航空宇宙実験をPRしようと、帯広市企画部企画主査の木川博史さん(50)がこのほど、宇宙航空研究開発機構(JAXA、東京都)の多目的実証実験機「MuPALα」(ミューパル・アルファ)の紙飛行機型紙を製作した。東京都内の研究施設で見学者に配布されほか、事前に関わり合わせると市役所でも手に入れることができる。木川さんは「紙飛行機作りやうまく飛ばすための工夫をすることで、科学に興味を持ってもらいたい」と話している。

(深田隆弘)



MuPALαは双発のプロペラ機。JAXAは2000年から大樹町で、航空機の効率運航に関し研究開発を続けている。成果は、国や航空計器メーカーなどに提供される。木川さんは現在、宇宙開発実験の誘致運動を担当。子供のころから空に

多目的実証実験機「MuPALα」の紙飛行機と型紙を製作した木川さん

あこがれ、20年ほど前から市販の型紙で紙飛行機の製作を趣味にしてきた。「自分の作った機体が、ゆっくと上昇していく様子を眺めるのが楽しい」と話す。

昨年、紙飛行機の全国大会に出場した際に、MuPALαの型紙も作製。A4判で実物のほぼ100分の1の大きさ。型紙から切り取り接着剤で張り合わせる1時間ほどで完成する。この型紙はJAXAの目にとまり、4月以降、都内の研究施設で見学者に配布されることになった。

木川さんは「大樹町で行っている航空宇宙分野の実験を広く知ってもらおうきっかけになれば、今後は、試験飛行船の型紙も手がけたい」と話している。

詳しい問い合わせは、帯広市役所(24・4111、内線1111)。